日本文学教材系列

日本近现代文学作品选读

吴鲁鄂／主编

:I

WUHAN UNIVERSITY PRESS
武汉大学出版社

日本近现代文学作品选读

主　　编　吴鲁鄂
参编人员　李故静　吴罗娟
　　王净华　王金华

武汉大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本近现代文学作品选读/吴鲁鄂主编.—武汉：武汉大学出版社，2006.1

日本文学教材系列

ISBN 7-307-04851-5

Ⅰ.日… Ⅱ.吴… Ⅲ.①日语—阅读教学—高等学校—教材 ②近代文学—日本—高等学校—教材 ③现代文学—日本—高等学校—教材 Ⅳ.H369.4:I

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 144515 号

责任编辑：王春阁 王金华 版式设计：艾 笛

出版发行：武汉大学出版社 (430072 武昌 珞珈山)

(电子邮件：wdp4@whu.edu.cn 网址：www.wdp.com.cn)

印刷：湖北省通山县九宫印务有限公司

开本：787×980 1/16 印张：20.5 字数：377 千字

版次：2006 年 1 月第 1 版 2006 年 1 月第 1 次印刷

ISBN 7-307-04851-5/H·410 定价：29.00 元

版权所有，不得翻印；凡购我社的图书，如有缺页、倒页、脱页等质量问题，请与当地图书销售部门联系调换。

前　言

本教材为武汉大学“十五”规划教材，适用于大学日本语言文学系高年级及硕士研究生的日本文学课教学。教材旨在引导学生掌握解读日本文学作品的基本技巧和方法；了解日本近现代发展的进程；把握日本人的审美意识、价值取向、思想活动规律，从而达到综合提高学生文学阅读、赏析能力的目的。

教材在作品的择选上，较多地编入了带有明显“反近代”①“反危机”倾向的作品，同时也兼顾到日本近现代各个时期、各个不同流派的代表作。教材共选作品（小说）十二部，每部作品（部分为节选）均附有［作家介绍］、［作品介绍］、［读解参考］、［研究现状］、［思考题］、［参考文献］等多项可参考利用的资料，并根据作品赏析重点的不同，将［文学作品读解要领］分散安排在作品正文之后，以期学习者能通过不同作品赏析的实践，全面掌握文学作品读解的方法。

本教材的编写模式出自于主编自己对文学课教学方式的认识和多年进行文学课教学的经验教训的总结，若能为学生的自学起到引导作用、为教师组织课堂讨论等活动提供一些方便，将不甚欣慰。由于主编本人水平有限，视野不够开阔，资料的取舍不一定得当，存在许多不足之处，欢迎各位提出宝贵的意见。使用者也可以根据自己的需求，自由取舍、灵活使用。另外，考虑到个别作品较为苦涩难懂，而中国方面又有极好的参考资料，所以尽管教材全部以日语撰写，但还是选用了个别中国方面的研究资料。同时也希望使用本教材的同仁，随时关注中国国内的研究，定会起到很好的参考作用。

本教材的主编吴鲁鄂系武汉大学日语系教授，担任全书的构思和主要的编写工作。另外，武汉大学日语系教师李故静担任了研究现状、参考文献（新出）的资料收集工作；华中农业大学日语教师吴罗娟担任了注释及部分资料收集等工作；华中科技大学日语教师王净华、武汉大学日语系研究生王金华参与了部分工作，特此说明。

---

① 反近代：反对一味地模仿西方。此概念由三好行雄提出。见《日本文学的近代与反近代》．日本．东京大学出版会。1972 年。

另外，本教材的编写得到了外语学院各位领导的大力支持和武汉大学出版社编审王春阁老师的鼎力相助，在此深表谢意。

在教材即将出版之际，不由地对二十年前的硕士导师吉田凞生先生①、撰写拙著《夏目漱石与中国文化》之际时给予悉心指导的三好行雄先生②产生无限怀念和感激之情。现今，两位恩师都相继辞世，但愿此教材的出版能一慰其在天之灵。

吴鲁鄂 于珞珈山寓所

2005 年 11 月 7 日

① 吉田凞生：原日本大妻女子大学教授、该校国文学部部长。

② 三好行雄：原东京大学教授、该校国文学部部长，日本近代文学馆馆长。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

目　次

前言……1

第一課　浮雲……1
文学作品の読解要領十二項の（一）……19
作家紹介……19
作品紹介……20
読解参考……21
研究情報……23
思考問題……23
参考文献（新出）……23

第二課　舞姫……25
文学作品の読解要領十二項の（二）……52
作家紹介……52
作品紹介……54
読解参考……54
研究情報……56
思考問題……57
参考文献（新出）……57

第三課　破戒……59
文学作品の読解要領十二項の（三）……88
作家紹介……88
作品紹介……89
読解参考……90
研究情報……92
思考問題……93

参考文献（新出） …… 93

第四課　こころ …… 94
文学作品の読解要領十二項の（四） …… 119
作家紹介 …… 120
作品紹介 …… 121
読解参考 …… 122
研究情報 …… 125
思考問題 …… 126
参考文献（新出） …… 127

第五課　羅生門 …… 129
文学作品の読解要領十二項の（五） …… 139
作家紹介 …… 139
作品紹介 …… 140
読解参考 …… 141
研究情報 …… 143
思考問題 …… 145
参考文献（新出） …… 146

第六課　城の崎にて …… 147
文学作品の読解要領十二項の（六） …… 155
作家紹介 …… 155
作品紹介 …… 156
読解参考 …… 157
研究情報 …… 159
思考問題 …… 160
参考文献（新出） …… 161

第七課　セメント樽の中の手紙 …… 162
文学作品の読解要領十二項の（七） …… 167
作家紹介 …… 167
作品紹介 …… 168
読解参考 …… 170

研究情報…… 172
思考問題…… 173
参考文献（新出）…… 174

第八課　伊豆の踊子…… 176
文学作品の読解要領十二項の（八）…… 206
作家紹介…… 206
作品紹介…… 208
読解参考…… 209
研究情報…… 211
思考問題…… 212
参考文献（新出）…… 212

第九課　山月記…… 214
文学作品の読解要領十二項の（九）…… 224
作家紹介…… 225
作品紹介…… 226
読解参考…… 227
研究情報…… 229
思考問題…… 230
参考文献（新出）…… 230

第十課　野火…… 232
文学作品の読解要領十二項の（十）…… 251
作家紹介…… 252
作品紹介…… 253
読解参考…… 254
研究情報…… 257
思考問題…… 258
参考文献（新出）…… 259

第十一課　氷壁…… 260
文学作品の読解要領十二項の（十一）…… 279
作家紹介…… 280

作品紹介…… 281
読解参考…… 282
研究情報…… 283
思考問題…… 284
参考文献（新出） …… 285

第十二課　「万延元年のフットボール」 …… 286
文学作品の読解要領十二項の（十二） …… 312
作家紹介…… 312
作品紹介…… 313
読解参考…… 314
研究情報…… 318
思考問題…… 319
参考文献（新出） …… 320

一 浮 雲

二葉亭四迷（ふたばていしめい）

［解題］ 中編小説。第一編は1894（明治20）年6月、第二編は翌年の2月、坪内逍遥の名を借りて金港堂によって出版。第三編は1896（明治22）年7月から8月にかけて、二葉亭四迷の名で金港堂の文芸雑誌『都の花』に発表。全篇合本は1898（明治24）年9月、金港堂によって刊行。第一編と第二編はほとんど句読点らしいものは見られなかった。第三編で中断された。本文は第一編より抄録したものである。

〔前半部分のあらまし〕内海文三は早く父を失い、十五歳の時母を静岡に残して上京し、叔父園田孫兵衛の家に下宿した。その後給費生となって、苦学し優秀な成績で卒業して、某省の下級官吏となった。園田家では叔父は不在勝ちだけ、叔母のお政は無教養で如才のないしっかり者、娘のお勢はわがままに育って軽佻な性格だけ、新しい教育を受けている。文三が卒業してから毎日お勢と顔を合わせるようになり、また彼女に英語を教えるようになって、お勢も少し地味で淑やかになった。文三の心の中ではお勢に対する恋慕の情が高まりつつあった。だが、文三はその内気な性格のため悶々の情を抱いているだけでなかなか彼女に打ち明けかね、お勢は文三の気持を察していながら知らないふりをしている。叔父もお政もお勢を文三に添わせたい気持ちで、年の改まるのを待っている。そうした折から文三は役所を諭旨免職になった。文三は免職の事をお政に打ち明けかねた。

枕もとで喚覚ます下女の声に見果てぬ夢を驚かされて、文三がうろたえた顔を振揚げて向こうを見れば、はや障子には朝日影が斜めに射している。「ヤレ寝過ごしたか……」と思う間もなく引き続いてムクムクと浮かみ上がった「免職」の二字で狭い胸がまずふさがる……芣莒①を振り掛けられた死蟇の身でおどり上がり、衣服をあらためて、夜の物を揚げあえず②、楊枝③を口へ頬ばり故手ぬぐいを前帯にはさんで、あわてて二階を降りる。その足音を聞きつけてか奥の間で「文さんはやくしないと遅くなるヨ。」トいうお政の声に圭角はないが、文三の胸にはぎっくり応えて返答にもまごつく。そこで頬ばっていた楊枝をこれ幸いと、われにもわからぬでたらめを句籠りがちに言ッてまず一寸のがれ、そこそこに顔洗ッて朝飯の膳に向かッたが、胸のみふさがッて箸の歩みも止まりがち、三膳の飯を二膳で済まして、いつもならグッと突き出す膳もソッと片寄せるほどの心づかい、身体までにわかに小さくなったように思われる。

文三が食事を済まして縁側を回りひそかに奥の間をのぞいて見れば、お政ばかりでお勢の姿は見えぬ。お勢は近ごろ早朝より駿河台辺へ英語のけいこにまいるようになッたことゆえ、さては今日ももう出かけたのかと恐る恐る座舗へ入ッて来る。その文三の顔を見て今まで火鉢の琢磨きをしていたお政がにわかに光沢布巾の手を止めて不思議そうな顔をしたそのはず、この時の文三の顔色がツィ④一通りの顔色でない、蒼ざめていて力なさ

---

① 芣莒：オオバコ科の多年草。道端などの踏み固められた所に生える。漢方では種子を車前子、葉を車前葉といい、薬用。若葉は食用。

② 揚げあえず：あげもしない。

③ 楊枝：歯のあかをとり、きれいにするための道具。楊柳の材の先端をたたいて総状にしたもの。ふさ楊枝。

④ ツィ：ちょっと。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

そうで、悲しそうで恨めしそうで、恥かしそうで、イヤハヤ何とも言いようがない。

「文さんどうかおしか①、大変顔色がわりいヨ。」

「イエどうもしませぬが……」

「それじゃアはやくおしヨ。ソレごらんな、モウ八時にならアネ②。」

「エーまだお話し……申しませんでしたが……実は。ス、さくじつ……め……め……」

息気はつまる、冷汗は流れる、顔はあかくなる、いかにしても言い切れぬ。しばらく無言でいて、さらに出直して

「ム、めん職になりました。」

ト一思いに言い放ッて、ハッと差しうつ向いてしまう。聞くと等しくお政は手に持ッていた光沢布巾を宙に釣るして、「オヤ」と一声叫んで身を反らしたまま一句も出でばこそ③、しばらくはただ茫然として文三の貌をみつめていたが、ややあッてせわしく布巾をほうり出して小膝を進ませ、

「エ御免におなりだとエ④……オヤマどうしてマア。」

「ど、ど、どうしてだか……私にもわかりませんが……大方……ひ、人減らしで……」

「オーヤオーヤしようがないネー、ママ御免になってサ。ほんとうにしようがないネー。」

---

① おしか：お：尊敬の意を表す接頭語；し：するの連用形。目上の人が目下の人に対してよくこういう話し方をする。

② ならアネ：なろうね。

③ 出でばこそ：文語動詞「出づ」の未然形＋接続助詞「ば」＋係助詞「こそ」、終助詞的に用いて強い否定の意を表す。……などするものか。

④ とエ：引用の格助詞「と」＋念を押したり、語気を強めたりする気持ちを添える終助詞「え」。

と落胆した容子。しばらくあッて

「マアそれはそうと、これからはどうしていくつもりだエ。」

「どうもしようがありませんから、母親にはもう少し国にいてもらッて、私はまた官員の口でもさがそうかと思います。」

「官員の口てッたッてチョックラ、チョイと①ありやアよし、なかろうもんならまたいつうか②のような憂い思いをしなくッちゃアならないやアネ③……だからあたしが言わない事ちゃアないんだ④、ちイと⑤課長さんの所へも御機嫌伺いにおいでおいでと口の酸っぱくなるほど言ッても強情張ッておいででなかッたもんだから、それでこんな事になッたんだヨ。」

「まさかそういうわけでもありますまいが……」

「イイエきっとそうに違いないヨ。デなくッてなんぼ⑥人減らしだッて罪も咎もない者をそうむやみに御免になさるはずがないやアネ……それとも何か御免になってもしようがないようなわりい事をした覚えがおありか。」

「イエ何も悪いことをした覚えはありませんが……」

「ソレごらんなネ。」

両人ともしばらく無言。

「アノ本田さんは（この男のことは第六回に詳しく）どうだッたエ。」

「彼の男はようござんした。」

「オヤよかッたかい、そうかい、運のいい方はどッちへ回ってもいいん

---

① チョックラ、チョイと：ちょっと、すこし。
② いつうか：いつか。
③ しなくッちゃアならないやアネ：しなくてはならないよね。
④ 言わない事ちゃアないんだ：言ったことがあるのではないか。
⑤ ちイと：ちょっと。
⑥ デなくッてなんぼ：いくら。

だネー。それというがぜんたいあの方は如才がなくッて発明①で、ハキハキしておいでなさるからだヨ。それに聞けば課長さんの所へも常不断御機嫌伺いにおいでなさるという事たから、きっとそれでこんどもよかッたのに違いないヨ。だからお前さんもわたしの言う事をきいて課長さんに取り入ッて置きゃア今度もやっぱりよかったのかもしれないけども、人の言う事をおききでなかッたもんだからそれでこんな事になっちまッたんだ。」

「それはそうかもしれませんが、しかしいくら免職になるのが恐いと言ッて私にはそんなそんな鄙劣な事は……」

「できないとお言いのか……フンやせ我慢をお言いでない、そんな了簡方②だから課長さんにも睨られたんだ。マアヨーク考えてごらん、本田さんのようなあんな方でさえ御免になってはならないと思いなさるもんだから手間暇かいで③課長さんに取り入ろうとなさるんじゃアないか、ましてお前さんなんざアそう言ッちゃアなんだけれども、本田さんから見りやア……なんだから、なおさらの事だ。④それもネーこれがお前さん一人の事なら風見の烏みたように高くばッかり止まッて食うや食わずにいようといまいとそりゃアもうどうなりと御勝手次第さ、けれどもお前さんにはおっかさんというものがあるじゃアないかエ。」

母親と聞いて文三のしおれ返るを見てお政はよい責め道具を見つけたという顔つき、長羅宇⑤の煙管で席をたたくをキッカケに、

---

① 発明：賢いこと。
② 了簡方：考え。思慮。
③ 手間暇：手間暇かけて。
④ まして…なおさらの事だ：ましてお前さんなどは、はっきり言っては悪いけど、本田さんに比べるとまるで愚図なのだから、なおさらご機嫌伺いに行くべきだ。
⑤ 長羅宇：セルの雁首と吸い口とをつなぐ竹の管。

「イエサ①おっかさんがおかわいそうじゃアないかエ。マアとっくり胸に手をあてて考えてごらん。おっかさんだッておとっさんには早くお別れなさるし、今じゃたよりにするなア②お前さんばっかりだから、どんなに心細いかしれない。なにもああしてお国で一人暮らしの不自由な思いをしておいでなさりたくもあるまいけれども、それもこれもみんなお前さんの立身するばっかりを楽しみにして辛抱しておいでなさるんだヨ。そこをすこしでも汲み分けておいでなら、たとえどんなつらいと思う事があッてもいやだと思う事があッても我慢をしてサ、石にかじりついても出世をしなくッちゃアならないと心がけなければならない所だ。それをお前さんのように、や人のきげんを取るのはいやだの、やそんな卑劣な事はできないのと③そんなわがまま気ままを言ッておっかさんまで路頭に迷わしちゃア、今日冥利がわりいじゃないか。それゃアモウお前さんは自分の勝手で苦労するんだからかまうまいけれども、それじゃアおっかさんがおかわいそうじゃアないかい。」ト層にかかッて極めつけれど、文三は差し向いたままで返答をしない。

「アアアアおっかあさんもあんなに今年の暮れを楽しみにしておいでなさる所だから、今度御免におなりだとお聞きなすったらさぞマアがっかりなさることだろうか、年をとッて御苦労なさるのを見るとほんとにお痛しいようだ。」

「実に母親には面目がございません。」

「あたりまえサ。二十三にもなッておっかさん一人さえ楽に養す事ができないんだものヲ。フフン面目がなくッてサ。」

---

① イエサ：いやさ。
② たよりにするなア：たよりにするのは。
③ や：他人の話の前に置かれて、引用の意を表す。

トツンと済まして空うそぶき、煙草を環に吹いている。そのお政の半面を文三は畏らしい顔をしてきっと睨つけ、何事をか言わんとしたが①……気を取り直してにっこり微笑したつもりでも顔へあらわれた所は苦笑い、震い声ともつかず笑い声もつかぬ声で

「へへへへ面目はござんせんが、しかし……で……できた事なら……しようがありません。」

「何だとエ。」

トいいながら徐かにこなたを振り向いたお政の顔を見れば、いつしか額に芋蠋ほどの青筋を張らせ、肝癪の眥を釣り上げて②唇をヒン③曲げている。

「イエサ何とお言いだ。できた事ならしようがありませんと……だれがでかした事たエ、だれが御免になるように仕向けこんだエ、みんな自分の頑固から起こった事じゃアないか。それも傍で気を付かぬ事か、さんざっぱら④人に世話を焼かして置いて、今さら御免になりながら面目ないとも思わないで、できた事ならしようがありませんとは何の事たエ。それはお前さんあんまりというもんだ、あんまり人を踏み付けにすると言う者だ。ぜんたいマア人を何だと思っておいでだ。そりゃアお前さんの事たから鬼老婆とか糞老婆とか言ッて他人にしておいでかもしれないが、わたしアどこまでも叔母のつもりだヨ。ナアニこれが他人で見るがいい、お前さんが御免になッたッてならなくッたッてこっちにゃア痛くも痒くも何ともない事たから、何で世話を焼くもんですか。けれども血はつながらずとも縁あッて叔母とな

---

① 言わんとしたが：言おうとしたが。
② 額に…釣り上げて：非常に怒る様子。
③ ヒン：［接頭］動詞などの上に付き、その意を強める。
④ さんざっぱら：さんざん。

り甥となりして見れば、そうしたものじゃアありません。ましてお前さんは十四の春ポッと出の山出しの時から、長の年月このわたしは婦人の手一ツで頭から足の爪頭までのことを世話アしたから、わたしはお前さんを御迷惑かは知らないが血を分けた子息同様に思ッてます。ああやッてお勢や勇という子供があッても、すこしも陰陽なく①している事がお前さんにゃアわからないかエ。今までだってもそうだ、どうぞマア文さんも首尾よく立身して早くおっかあさんをこっちへお呼び申すようにしてあげたいもんだと思わないことはただの一日もありません。そんなに思っている所だものヲ、お前さんが御免におなりだと聞いちゃアあたしは愉快はしないよ、愉快はしないからアア困ッた事になッたと思ッて、ヤレこれからはどうしていくつもりだ、ヤレお前さんの身になったらさぞおっかさんに面目があるまいと、人事にしないで嘆いたり悔やんだりして心配してる所だから、ぜんたいなら②「叔母さんの了簡に就かなくッてこう御免になって、まことに面目がありません」とか何とか詫び言の一言でも言うはずの所だけれど、それも言わないでもよし聞きたくもないが、人の言う事を取り上げなくッて御免になりながら、糞落ち着きに落ち着き払ッて、できた事ならしようがありませんとは何の事たエ。マどこを押せばそんな音が出ます③……アアアアつまらない心配をした、こっちではどこまでも実の甥と思ッて心を付けたり世話を焼いたりして信切を尽くしていても、先様じゃア屁とも思し召さない。」

「イヤ決してそう言うわけじゃアありませんが、ご存じの通り口不調法

---

① 陰陽なく：公平。

② ぜんたいなら：本来なら。

③ どこを押せばそんな音が出ます：人を叱る時の話。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com